

令和4年度第2回一宮市障害者自立支援協議会本会

開 催 令和5年1月31日（月）午後1時30分～3時30分

場 所 一宮市役所本庁舎14階1401大会議室

出席者 委員17人

運営会議メンバー9人 障害者相談支援センター相談員2人

障害者基幹相談支援センター相談員1人 部会員3人

尾張西部圏域地域アドバイザー1人 事務局9人

1. 開会

- ・ 障害福祉課長あいさつ、開会宣言、欠席者確認
- ・ 会長あいさつ、出席者紹介

（要旨）尾張西部圏域地域アドバイザーには、各議題終了時などにコメント・最新動向などをお聞きする。また議事録署名者を選出。本日は傍聴人なしであることを確認。

2. 議題

(1) 個別支援会議（相談支援連絡会）の報告について

* 事例

[対象者] 50代男性、精神障害

[状況] 一般就労歴あり、心理的虐待にて虐待通報

[支援会議における検討]

- ・ ギャンブル代を捻出するために食費を使い込み、偏った食生活となる。また生活費の使い込みがある
- ・ 夫婦の共依存関係について、妻の介護負担軽減を図りたい

[今後の生活に向けて]

- ・ ギャンブルに対して正しい向き合いができるように働きかける
- ・ 電子マネーの活用などで本人の金銭管理意識を高める
- ・ 夫婦間の環境調整、支援者の連携強化をしていく

(2) 障害者基幹相談支援センター・虐待防止センターの活動報告について

【障害者基幹相談支援センター報告】

[具体的な活動]

相談支援体制強化、地域連携強化、触法障害者支援強化、地域移行・地域定着支援の充実、自立支援協議会、権利擁護など

[計画相談学習会の企画、運営]

- ・講師を関係機関に依頼することで、新たな知識を得るだけでなく連携強化につながった
- ・初任者研修のフォローアップとして市内の相談員に関わってもらうなど、地域の相談支援の質の向上をめざす

[差別解消に向けての合理的配慮好事例]

- ・ゆっくり支払いをする当事者に別のレジを開けてくれる事例
- ・エレベーターのボタンが2箇所設置
- ・駐車場でインターフォンを押すと店員が荷物運びなど手伝う

[解消法改正]

- ・民間の事業所と対話をしていく姿勢が必要。できる・できないではなく、建設的対話をしていく。

[今後に向けて]

- ・差別解消のため、好事例の共有
- ・権利擁護について本人の意思決定などに注目

【虐待防止センター報告】

[相談・通報・届出件数等]

- ・養護者、施設従事者ともに増加
- ・養護者のうち虐待無しとしたケースは10件、有無が確認できなかったケースが4件
- ・そこで終了ではなく、支援の継続や相談支援センターの紹介などもしている

[被虐待者の障害種別、虐待種別]

- ・提出資料を元に確認

[養護者による障害者虐待]

- ・対応について、3件ともに分離せず
- ・助言・指導2件、新たな障害福祉サービス利用1件、計画の見直し1件

[虐待防止講演会の開催について]

- ・令和4年9月5日 本庁舎14階1401会議室で開催
- ・講師 尾張西部圏域アドバイザー 野崎氏
- ・テーマ「本気で虐待を0にするために」
- ・121名が参加

【議題（1）、（2）について質疑応答】

(本会委員) 虐待通報プロセスについて。児童では虐待と認められるのは9割ほど。養護者が否認すると難しい。特に虐待が疑わしい場合はどのように対応しますか

(事務局) 児童虐待の認定の傾向としては、高齢者と同様でほぼ認定している状況だと思います。障害者虐待は早期発見の意識が上昇しているので、疑わしい段階でも通報していると認識しており、ここ数年は通報と認定の件数に開きがあります。また否認の場合は、

客観的アセスメントで状況を詰めていきますが、虐待認定できなかった場合そのままというのは我々としても怖いので、ほかに理由をつけ継続的にアプローチをとっていきます。(本会委員) どこからの通報が多いでしょうか。

(事務局) 養護者虐待 17 件について、警察が 6 件、障害福祉施設従事者からが 6 件、相談支援専門員からが 2 件、医療関係者から 2 件、本人 2 件、あと県会議員からというのがありました。

(会長) 通報件数内訳については数字を資料に示した方がよいかと思いましたが、ご検討いただければと思います。

(3) 生活支援部会、子ども部会、就労支援部会、運営会議等の報告について

【生活支援部会】

[①人材確保プロジェクト]

- ・障害福祉サービスの仕事を多くの方に知ってもらう、そして共に働く仲間を増やすことを目的として活動
- ・「いちのみやジョブフェスタ 2022 秋～みらいに逢を～」令和 4 年 10 月 22 日 宮前三八広場で開催
- ・ほかのイベントとも被り、大変盛況
- ・就職につながったケースも 3 名あった
- ・イベント内容も工夫し、来年も第二弾を考えている

[②ヘルパー連絡会]

- ・研修「意思決定支援パート 2 意思決定支援会議を進める」令和 4 年 10 月 27 日開催
- ・講師に野崎アドバイザー
- ・40 名ほど参加し、意思決定支援会議をどのように進めるか、実際に体験してどう役立っているかを学べた

[③防災プロジェクト]

- ・危機管理課とコラボ企画を考案中
- ・福祉避難所が何を求められるかとか、どんな行動が役に立つのかなどを考えている
- ・「わたしの災害対策ノート」の更新と活用も引き続き行う

[④行動援護サポートプロジェクト]

- ・4 コママンガでホッと話す話を掲載

[⑤地域生活支援拠点プロジェクト]

- ・一宮市にどういう仕組みを作るか考えてきた
- ・相談につながっていない人はどうするかなど、いろいろと情報共有が図れている

[⑥ホーム連絡会]

- ・スタッフの人間関係について学ぶという内容で交流

[⑦警察プロジェクト]

- ・一宮警察署生活安全課に寸劇を交えながらの情報交流

[今後の予定]

- ・障害福祉に関する地域への普及啓発や理解促進
- ・特に人材確保が難しい。ここをどうするかというところに大きな関心が出てくると思われる
- ・官民一体となって、地域のための事業を展開していく

【子ども部会】

関係者の情報交換をメインに、3つのグループにわかれ課題検討

[放課後等デイサービス事業所連絡会グループ]

- ・連絡会内で講演会を企画
- ・講師 たくと大府施設長 林 大輔氏
- ・テーマ「自閉症の障害特性と支援のポイント」
- ・同様の企画を令和5年2月20日の第3回連絡会でも予定

[普及啓発グループ]

- ・一宮市支援が必要な子どものためのサービスマップを「サポートマップ」に改編。今年度中にウェブサイト掲載をめざす。
- ・サポートブックの活用について現状把握を行う

[令和4年度 子ども部会講演会]

- ・講師 一宮医療療育センター 上村 治氏
- ・タイトル「子どものきもちの理解と深層の自尊感情 ～自分を“だいじ”に思えるために～」
- ・参加者が「あたたかく前向きな気持ちを抱けた」といった感想を抱いた講演会だった

[児童発達支援センターグループ]

- ・連絡会を通して情報共有やスキルアップを図っていく

[今後の予定]

- ・ほかの部会などとの情報交換など含めて、さらにスキルアップをめざす

【就労支援部会】

部会長欠席のため書面報告とする。

【日中活動事業所連絡会議】

会議を3ヶ月に一度程度開催

[会議の主な内容]

- ・この連絡会議の意義の確認
- ・日中活動事業所にも質を高めたいという意識が芽生えてきた
- ・コロナ禍でのギリギリになって仕事をしているという思いを共有
- ・新規事業所はB型が多い
- ・Zoomでもちゃんと交流できるということがわかってきた

[今後の予定]

- ・ 自立支援協議会の基本は個別支援会議
- ・ コロナ禍でもオンラインでなにかうまくできないかと考えている

【触法障害者支援連絡会議】

- ・ 年3回実施
- ・ 参加者には司法関係者も多く参加し、ネットワークづくりができています

[内容]

第1回7月

- ・ 最近の情勢、個別支援会議の困難事例検討
- ・ 事例検討で、グループワークを取り入れたことで発言機会が増え、より司法関係者との交流ができた
- ・ これまでの支援体制ではケアしきれない人が多くなってきた
- ・ 少しでも地域が自然に見守れるような地域づくりが必要で、そのための組織立った仕組みづくりが必要であると確認

第2回11月

- ・ 事業所内での触法と思われる事例を検討
- ・ 当事者の特性を理解するよう努めているが、なかなか至らないところもある
- ・ 触法事例があっても、事業所中で抑えてしまうこともあり、現状に対し支援者を守っていく必要もある
- ・ 司法への相談もひとつの方法
- ・ 支援者のスキルアップのための研修も必要とされた
- ・ 福祉の現場を司法の人に知ってもらえたということが大きい成果だった

[今後の予定]

- ・ 第3回は3月1日（水）開催予定

【医療的ケアネットワーク】

- ・ にしおわり医療的ケア児支援センター主催のシンポジウム開催予定
- ・ 圏域が一宮市・稲沢市なので共催・協力でそれぞれの自治体のネットワーク会議が入っている

[質問紙調査の結果について]

- ・ 障害福祉サービス全体の満足度からは、不満を持っている人はほぼいない
- ・ ただし、「やや不満」を選ぶ低年齢層が多い
- ・ 特に3～6歳が日中自宅で過ごしているのので、園・学校での訪看が必要
- ・ 主介護者の7割が母親。母親を支えてほしい
- ・ 災害時の支援への要望が多い

[うきうきフェスタ]

- ・ 令和4年10月29日 一宮医師会館にて開催
- ・ プラネタリウム、カーリングなどを子どもたちに楽しんでもらう

- ・7名参加

[福祉ナース交流会]

- ・第2回開催に向けて検討中

[今後の予定]

- ・にしおわり医ケア児センターとの連携を行い、親御さんがどこへ連絡したらよいかと
いうことをわかるような役割の明確化
- ・これまでは情報交換が主だったが、だんだんと解決策を示してきている
- ・運営会議にも意見を出せるよう、構造を変えていこうと思う

【運営会議報告】

- ・運営委員構成について説明
- ・個別支援会議で分析された課題を運営会議にあげ、さらに検討を加えていった内容の
まとめを参考に報告

[地域課題]

①医ケア児等の社会的支援の拡充

- ・にしおわり医療的ケア児支援センターの開設もあったので協力をしていく

②適性な支給量の見直し

- ・行政との話し合いの場も持ち検討を深めている

③高齢者と障害者世帯、8050問題など

- ・個別支援会議でもよくみられる
- ・重層的支援の活用などを議論しつつ、成年後見センターなどの期待は根強く継続

④集団への不適応がある児童について、支援者のアセスメントを深めること

⑤災害時に備えた対策

- ・生活支援部会でも報告のあった内容

⑥成年後見センターの設置

- ・センター設置への期待は根強く、行政へ働きかけている

[今後の課題・まとめ]

- ・インフォーマルな資源を含めた地域づくりの重要性を認識
- ・包括、重層との連携を検討していく

(4) 第3次一宮市障害者基本計画の進捗状況について

- ・本計画は令和3年度から8年度までの計画
- ・資料66～70ページ 施策取組内容一覧
- ・令和3年度取り組みのうち一部を説明

【第3次一宮市障害者基本計画の進捗状況】

[基本目標2「すき間のない相談支援・情報提供体制の整備」施策3「相談支援体制の整備」

①「福祉総合相談室の設置」]

- ・令和3年度から設置
- ・障害者相談、生活困窮相談、精神保健福祉分野、難病患者相談に対応
- ・複合的な困りごと（障害者と引きこもりなど）にも対応

[基本目標5「障害のある人の雇用・就労の支援」施策1「雇用・就労の促進」③「雇用拡大の推進」]

- ・障害者特別雇用奨励金実績、57事業所218人

[基本目標6「地域生活を支える生活環境の充実」施策1「安全・安心な居住環境の整備」③「歩道のバリアフリー化」]

- ・令和3年度実績、943メートル
- ・光明寺二ツ屋線、五城森上、岩倉街道線

【第6期一宮市障害福祉計画・第2期一宮市障害児福祉計画の進捗状況】

[目標1 福祉施設入所者の地域生活への移行]

- ①施設入所者の地域生活への移行者 目標値12人、令和3年度末実績9人
- ②施設入所者の削減数 令和3年度末202人、令和元年度からの削減なし。グループホーム等社会資源不足の解消に努める必要がある

[目標2 地域生活支援拠点等の機能の充実]

- ・「障害者緊急短期入所利用空床確保事業」を継続して実施
- ・生活支援部会内に地域生活支援拠点について検討する場を設けたため、引き続き検討

[目標3 福祉施設から一般就労への移行等]

- ・成果目標のうち②以外は目標値を上回る
- ・一般就労への移行者は増加、引き続き就労支援サービスの充実を図る

[目標4 障害児支援の提供体制]

- ・医ケアコーディネーターの配置など、地域で安心して暮らすための支援体制強化を図る

[目標5 相談支援体制の充実・強化]

- ・学習会や連絡会を通して各事業所間の連携も深めている
- ・今後も福祉総合相談室、基幹相談センターを中心に重層的な相談支援体制の充実・強化を図る

[目標6 障害福祉サービス等の質を向上させるための取組]

- ・各種研修会を開催
- ・放課後等デイサービス事業所連絡会 テーマ「障害児の性教育」
- ・ホーム連絡会、ヘルパー連絡会 テーマ「障害者虐待防止」
- ・医療的ケアネットワーク会議 テーマ「医療的ケア児者が安心して暮らす地域づくり」

【議題(3)、(4)について質疑】

(本会委員) 医療的ケアネットワーク会議について。児者ということで多様な方が対象であることがわかります。保健所長として把握しているところだと、超低出生児の出生数が

多くなり、気管切開などの事例が多くなってきたところが原因かなと考えています。アンケート調査では気管切開、人工呼吸器の例も把握されており、在宅での問題も理解ができるところ。ここから災害時の支援を考えると、在宅酸素の方はやはりバッテリーが問題になります。いかに電源があるところにたどりつくか、東北大震災の時にはギリギリでたどりついたという事例もありました。一宮市では地盤沈下などの懸念もあるが、とりあえずどこに電源があるのか把握するという事は大切かと考えています。

(運営会議メンバー) 児者それぞれについて、その存在を把握することは大切であり、今後また調査結果をお伝えできればと考えています。超低出生児の問題もやはり大きいですが、この圏域特有の事情として、周産期母子医療センターは一宮市民病院にしかありません。そこから退院するときのカンファレンスに必ず医ケアコーディネーターが参加させてもらうなど、とにかく福祉につなげることが重要。福祉は特に、母親への支援とも言えます。稲沢市はほぼ全数把握しており、一宮市でも全数把握に努めたいと考えています。

(本会委員) アンケートについて。設問 60「主介助者が相談している人は誰ですか?」というところで、薬剤師も医療的ケア児については勉強しており、関わっていることも多いので、できたら選択肢に加えていただきたい。要請があれば自宅まで行って薬の管理をする、ということもあります。まだ多くはないところですが、医ケア児については積極的に関わりたいと思います。

(運営会議メンバー) 大切なことを失念しておりました。ただ、今回のアンケートの質問項目を変えるのも厳しいので、次回以降変えていこうと思います。

(5) 令和4年度、5年度の障害福祉施策について

【令和4年度補助事業】

[障害福祉サービス継続支援事業費補助金]

- ・新型コロナウイルス感染者等が発生した場合において必要な障害福祉サービス等を継続して提供できるよう支援するもの
- ・感染症による影響を最小限に抑えることが重要であると考えている

以下の3つは新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金を活用した補助金

[障害福祉サービス送迎加算導入促進事業補助金]

- ・送迎を行う事業者原油価格高騰などの経済的負担を軽減することを目的
- ・送迎を行うことで感染リスクの抑制も期待
- ・送迎加算の算定を受け、一宮市の支給決定を受けた障害者の送迎サービスを提供することを要件としている

[障害福祉サービス事業所光熱費高騰対策支援金]

- ・愛知県が実施した光熱費高騰対策支援金の対象外となった相談系・訪問系事業所についても、円滑な運営に支障が生じないように支援するもの

[障害福祉分野におけるロボット等導入推進モデル事業補助金]

- ・重度障害者を受け入れている市内社会福祉法人と協定を結び、介護補助を行うロボット等を試験導入
- ・介護業務の負担軽減、働きやすい職場環境の整備、安全安心な福祉サービスの提供を推進
- ・感染者に対しては接触時間の短縮や、集団感染を抑制することを目的として支援
- ・モデル事業として、各法人にはほかの市内事業所への周知など波及効果も狙う
- ・市内でのロボット導入の機運が高まれば、国の補助事業等の実施なども検討していく

[重度障害者受入れ補助金]

- ・令和3年3月の報酬改定を踏まえ、地域課題である障害者の重度化・高齢化に適切に対応できるよう国の報酬に上乘せして補助するもの
- ・さらに、グループホームへの重度障害者の受入れを促進するため、医療的ケア対応、夜勤職員の加配に対しても補助
- ・今後、令和6年3月の報酬改定に併せ、内容を見直す予定

【第7期一宮市障害福祉計画等策定について】

- ・令和5年度は第7期一宮市障害福祉計画、第3期一宮市障害児福祉計画の策定年度
- ・本会委員は、一宮市社会福祉審議会障害者福祉専門分科会の臨時委員としてご協力をお願い
- ・分科会は年5回を予定

【日中サービス支援型共同生活援助の評価見直し、総量規制】

[日中サービス支援型共同生活援助の評価見直し]

- ・グループホームを利用しつつ日中の通所が難しい重度・高齢の方向けサービス
- ・定期的な事業実施状況の報告・評価を受けることとされている
- ・また、指定申請にあたって指定権者が必要とする場合は事前に評価を受けることも求められる
- ・一宮市は定期的な評価は自立支援協議会で行っているが、事前評価をしていない
- ・しかし、昨今一宮市だけでなく県全体で新しく事業を始める法人が増えており、質の確保が重要となっている
- ・そこで今後は事前評価をすることとする
- ・評価に使う様式等の変更も行う

[総量規制について]

- ・計画の必要量に達している場合、事業所の指定をしない、ということができるようになっており、これを「総量規制」という
- ・中核市になって指定は市の事務となり、必要量に達した場合、見込み量を上回っているサービスの総量規制を実施していく
- ・現在対象となるのが生活介護、児童発達支援

- ・ただし、行動障害、医ケア、重心を対象とする場合は総量規制の対象としないということも考えている
- ・今後も実情に応じて、適時見直しを行っていく

【令和5年度障害福祉事業の方向性について】

[重度障害者受入補助金の継続実施]

- ・先ほど報告のあった本補助金に、新たに、重心・医ケア児についても補助の対象に加えていきたいと考えている

[相談支援専門員増員への支援事業]

- ・一宮市の地域課題として、セルフプラン率が極めて高い
- ・すべてのセルフプランがいけないというわけではないが、原因は見ていく必要はある
- ・大きな要因は相談支援専門員の少なさにあると考えている
- ・そこで、特定相談に増員をお願いするための予算の確保を考えている
- ・相談支援専門員がつくことで、第三者の目が入り適正なサービス利用につながっていくのではないかと狙っている

[身体障害者手帳指定医のスキルアップ事業]

- ・身体障害者手帳発行の交付のスピードアップは中核市移行メリットのひとつとして大きく取り上げられた
- ・現状、3週間で交付できた率が7割くらい、残りの3割については3週間で出せていないということになる
- ・原因として、判定時に診断書の内容で不明な部分があり、疑義照会をしなければならないケースが多い
- ・そこで、一宮市医師会に協力をいただき、診断書を作成する指定医のスキルアップを図る事業を単年度事業として実施したいと考えている

【議題(5)について質疑応答】

特になし

【尾張西部圏域アドバイザーコメント】

- ・たくさんの報告があることはさすが一宮だと感じる
- ・個別支援会議の課題をどのように整理していったのか、その部分の報告もあるといい
- ・地域の相談支援体制の強化について、国の研修カリキュラムが昨年度から変更になったことも盛りこむとよい
- ・差別解消・虐待防止について、愛知県では差別解消の推進協議会というものを設けて、そこで具体的な内容や判断の是非について協議する。一宮市でもこれに代わるものを立ち上げるのはどうか

- ・生活支援部会では権利擁護問題が大きいものだったように見受けられる。本年度は全国的に不妊治療問題が話題になったので、その実態調査などもよいと思う
- ・地域生活支援拠点は愛知県でも最重要課題となっている。ただ実際に緊急事態が一宮市で起きて、大きな法人が支えているという実態もある。整備が目的ではないが、一宮市では志の高い法人の協力をあおぐことで整備が一気に進むのではないかと感じる。
- ・子ども部会は「発達支援の体制をどのように考えていくのか」というのがポイントだと感じる。国連勧告などからインクルーシブ教育が話題になっており、障害児分離教育をどう中止するか、話題にしていくとよい
- ・医ケアのアンケート、満足度が大変高いというのは驚き。全国ではこんな数字はあがらないんじゃないかと感じる。この満足度の土台なのかかわからないが、うきうきフェスタをすべてボランティアで行った、というのも本当にすごいことだと思う。障害児である前にひとりの子どもであることを理解する、ということが一宮市は進んでいる
- ・運営会議報告のところで、支給基準が設定され希望する暮らしができなかったということが伝わってくる。今後どうなったのか、というのは引き続き聞いていきたい。必要な人に必要な質・量のサービスをきちんと届けるというのは一宮市の目標だったので、官民協働で整えていきたい

(運営会議メンバーからコメント)

- ・支給基準の話は、実際にどこがどう困っていて、事業所としてなにができるかということをも3月21日のヘルパー連絡会で検討する予定

(6) その他

[障害者理解啓発講演会について]

- ・1月22日(日)に開催
- ・講師 社会福祉法人豊中市社会福祉協議会福祉推進室長 勝部 麗子様
- ・タイトル「地域共生社会の実現に向けて～すべての人に居場所と役割を～」
- ・大変高評価で盛況となった

[来年度会議日程(予定)]

- ・本年度同様、年2回を予定
 - 第1回 令和5年7月31日(月)
 - 第2回 令和6年1月29日(月)
- 会場 一宮市役所本庁舎
- ・計画策定協力について改めてお願い

3. 閉会

- ・会長あいさつ
- ・障害福祉課長から閉会宣言